－ 14 －　　山本　賜　が見つけた滑稽句　　2009 年 3 月 13 日

～一茶の句・・

「永き日や牛の涎の一里ほど」

思わず笑ってしまう句。白髪三千丈はそれほどリアリティーはないが、
牛の涎の一里はよく分かる。

ばせを忌やことしもまめで旅虱

芭蕉の時代には虱がたかるのは普通のことだった。
芭蕉の旅の句には虱がたびたび登場している。
一茶は虱仲間の旅人として芭蕉に親近感を抱いている。

親分と見えて上座に鳴く蛙

小動物をこよなく愛した一茶は複数の蛙に強い弱い、
或いは一家族をなぞらえたのだろう。大きい蛙が上座に
陣取っているのをみて親分としたのが可笑しい。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。